

2025年度業務実績報告書

提出日 2026年 1月 16日

1. 職名・氏名 准教授・今池 康人

2. 学位 学位 博士、専門分野 経済学、授与機関 大阪府立大学、授与年 2012年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済学史(2単位) 2年 担当コマ数：15コマ	
② 内容・ねらい 代における経済学の成立から20世紀後半に至るまでの経済理論の展開を講義する。経済理論の内容と並行して、その成立過程における社会的背景やその現代的意義についても合わせて議論する。経済学の成立・発展過程やその歴史的背景を学ぶことで、過去の学説を現在の議論に活かすなど、広い視点と長期的な視野で経済の動きを見る目を養うことを目指す。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度はeラーニングシステム(Google Classroom)によって講義資料を配信しつつ、主として対面での講義を行った。 学生からの意見・質問を円滑に取り入れるため、各回最後にリアクションペーパーを配布・回収し、質問については次回最初に時間をとり、学生全体に対して匿名で質問を紹介・返答する時間を作ることで全体での共有を行った。 また、学生の理解度の確認のため、全体を通して2回の小テストを実施した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 政治経済学(2単位) 2年 担当コマ数：15コマ	
② 内容・ねらい ケインズ・ハイエクという2人の経済学者に焦点を当てつつ福祉国家政策について学ぶことで、政治と経済に関する理解を深める。また、その前提となった政治哲学や現代的な問題にも触れることでより多面的な視点を養う。20世紀における福祉国家の発展と衰退を学ぶことで競争における市場と国家の重要性を理解する。	
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 今年度はeラーニングシステム(Google Classroom)によって講義資料を配信しつつ、主として対面での講義を行った。 学生からの意見・質問を円滑に取り入れるため、各回最後にリアクションペーパーを配布・回収し、質問については次回最初に時間をとり、学生全体に対して匿名で質問を紹介・返答する時間を作ることで全体での共有を行った。 また、学生の理解度の確認のため、全体を通して2回の小テストを実施した。	
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 基礎ゼミ(2単位) 2年 担当コマ数：15コマ	
② 内容・ねらい 入門レベルの文献を輪読し、経済学・経営学の基礎を学ぶ。そして、それをきっかけとして経済学・経営学を学ぶ必要性を再確認する。講義を通じて、正しい形式でのレポートの書き方、レジュメの発表やプレゼンの技法を学ぶと共に、経済・経営問題への興味を養う。	

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各回受講生にレジュメの作成・報告要旨の発表をさせ、講義最後にプレゼン形式でのレポート発表を行わせることで、発表の経験を積ませた。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 外書購読(2 単位) 2 年 担当コマ数：15 コマ
② 内容・ねらい 経済学の考え方や歴史の変遷を分かりやすく解説する英語の文献を輪読することで、経済学に関する専門用語を英語で学ぶ。経済学の発展の歴史とそれらがどのように現実問題と関わってきたかを検討する。文献の翻訳を通じて、経済学の基本的な概念や理論を理解し、それを英語で説明できる力を養う。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各回英語文献の翻訳を発表させることで、英語を読む力を養う。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅰ(4 単位) 3 年 担当コマ数：30 コマ
② 内容・ねらい 18～20 世紀の経済学説を学ぶと共に、その知見を元に現在の政治・経済問題について考察を行います。テキストを用いて経済学説を学ぶと共に、全体での討論を通して現代の経済問題についての議論を行います。単に経済学を学ぶだけではなく、得た知識を元にどのようにして現実問題と向き合っていくのかを考え、理論を現実に応用できる力を身に付けることができる。また、討論やレポート発表を通じて、論理的な議論とプレゼンテーションのスキルを身に付けることができる。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各回報告要旨を発表させることで報告の力を養う。また、学生に課題レポートを課すが、7 月に草稿計画、10 月に中間報告、1 月に最終報告を同時に課すことで、1 年を通して継続的に論文を執筆する力と発表の経験を積ませる。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 演習Ⅱ(4 単位) 4 年 担当コマ数：30 コマ
② 内容・ねらい 演習Ⅰに引き続き、18～20 世紀の経済学説を学ぶと共に、その知見を元に現在の政治・経済問題について考察を行います。また、年間を通して卒業論文の執筆と指導を行います。単に経済学を学ぶだけではなく、得た知識を元にどのようにして現実問題と向き合っていくのかを考え、理論を現実に応用できる。討論やレポート発表を通じて、論理的な議論とプレゼンテーションのスキルを身に付ける。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 各回報告要旨を発表させることで報告の力を養う。また、卒論執筆に際して、4 月、7 月、9 月、11 月に中間報告を課すことで 1 年を通じて継続的に論文を執筆する力と発表の経験を積ませる。
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 経済学(2 単位) 1 年 担当コマ数：1 コマ

② 内容・ねらい

オムニバス講義の最終回を担当する。最終講義なので全体を総括する講義を行う。経済学史をベースにしつつ、市場の自由、経済学において数学・統計がなぜ必要かといった講義を行うことで、これまでの経済学講義で学んだ内容の思想的裏付けを行う。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ラーニングシステム(Google Classroom)によって講義資料を配信しつつ、主として対面での講義を行った。1 年配当講義の最終回ということで、これまでの講義の思想的前提となる内容を中心に講義を行い、これまでの講義内容の理解を助けた。

① 担当科目名(単位数) 主たる配当年次等

特別企画講座 A(2 単位) 1 年

担当コマ数: 6 コマ

② 内容・ねらい

経済のグローバル化や成熟化、労働市場の規制緩和等を通じて、企業における使用者と労働者の関係は大きく転換しようとしている。そうした中で、働くとはどういうことか、またそこにおいて労働組合の果たす役割はどんなものなのか、具体例を交えて明らかにする。

働くことはどういうことか、労働者・従業員は法的にどのように守られているのか、労働組合はどのような役割を果たしているのか、労働組合以外で働く人々を誰がサポートしているのか、などについて理解を深め、キャリアを考えるもう一つの観点を獲得する。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

連合福井の寄付講座である。

各回講師を招き、学生に働く現場についての議論をケーススタディを重視しつつ講義を行う。また、第 9 回講義では 3 人のゲストスピーカーを招きパネルディスカッションを行うことで、より学生が興味を持てるよう配慮する。

【ゲストスピーカー 16 人】

(2)その他の教育活動

内容

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	【 本】
③その他論文（査読なし）	【 本】
④学会発表等	【 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
科研費 基盤研究(C)22K01415 260 千円 研究代表者 (2025 年度) 「自由社会における暗黙知と信念：マイケル・ポランニーのプロフェッショナリズム」 (2022-2027)	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
幹事(経済学史学会 関西部会) 幹事(経済社会学会) 幹事(地域公共政策学会)	

5. 地域・社会貢献活動

②国・地方公共団体等の調査受託等

1) 第 21 回福井県科学学術大賞 調査員

⑥公開講座、オープンカレッジ、社会人・高校生向けの講座の開講

1) 市民向けカフェ講座「哲学やろっさ」運営

第 7 回 哲学の読書会：カントの「嘘論文」をみんなで読もう 運営(2025 年 6 月 14 日)

第 8 回 恋とか、愛とか 運営(2025 年 11 月 23 日開催、当日は欠席)

2) 大野高校 学問発見口座 「経済学ってどんな学問？」 講師(2025 年 11 月 4 日)

6. 大学運営への参画

(1)補職

1 年生相談担当教員

(2)委員会・チーム活動

学生支援委員(2025 年 4 月～現在に至る)

職場委員(2024 年 4 月～現在に至る)

(3)学内行事への参加

全学ミーティングへの参加第 1 回(2025 年 4 月 24 日)、第 2 回(2025 年 10 月 8 日)

若狭高等学校 入試説明会(7 月 8 日)

(4)その他、自発的活動など